

小林 英俊

(財)日本交通公社理事

「エコツーリズム」に込められた願い

多くの人々が「エコツーリズム」という言葉に様々な願いや思いを込めて語る。自然環境や地球環境を守りたい、絶滅の危機にある野生生物を保護したい、マストツーリズムの弊害を無くしたい、地域振興の切り札にしたい、途上国の貧困を克服し適正な開発の道筋をつけたい、などなどである。「エコ」が文字通りのエコロジーの意味を越えて望ましい生き方やあるべきツーリズムのカタチを示す象徴的な言葉として使われている。あたかも「エコツーリズム」が魔法の呪文のようにだ。

これから、エコツーリズムを地域で取組む際に大切なことは、まず、関係する人々がこの言葉に込めたさまざまな願いの真意をくみ取りそれらを整理することであろう。そして、根っこのところで共有できる価値を見つけ出し向かうべき方向の確認をすることである。そのプロセスを経なければ、様々な願いの込められた「エコツーリズム」が同床異夢に終わってしまうだろう。

オーストラリアの自然遺産の島ロードハウ島では、住民自らがこの島に滞在できる旅行者の数を制限し自然環境の保全と観光的魅力の維持を図っている。住民が決めた生活ルールのなかには海鳥保護のために猫を飼わないことや買い物でのビニール袋の廃止などがある。島巡りもレンタカーではなく自転車使用が原則だ。オーストリアのチロルの山村レツヒ村では、村の美しい自然環境や静かな生活環境を守るために、バイオマスを使った地域暖房に取組み、観光客の車公害を減少させるために村営のハイキングバスやスキーバスを走らせている。またホテル組合では、村周辺の酪農家から酪農製品を市価より高い価格で買い取り村の環境や景観の保全に努めている。これら地域住民のエコロジカルな環境を守ろうという努力が大きな観光資源となって、高質な観光地を求める豊かな旅行者が次々と訪れている。

「エコツーリズム」とは、たんに自然体験型の旅行形態を指すのではない。地域に住む人々が自分たちの取り巻く環境エコロジーの大切さに気付き、それを住民共有の価値として守り育んでいく姿勢が魅力的なエコツーリズムを産み出す土壌となるのである。このような地域の人々の願いや思いに根を下ろした「エコツーリズム」が日本の各地で花開くことを願っている。